第１０９回定期大会
人間的連帯にあふれた職場をめざそう

スライド枠復元の実現しよう！回答指定日に誠意ある回答を！

滋賀銀行従業員組合は、10月21日守山市において第１０９回定期大会を開催しました。大会には金融労連近畿地協の岡野議長をはじめ多数の先輩組合員が終日参加され、地域金融機関に対する利用者や地域住民からの期待の声など幅広い視点での意見が交わされました。また、上期の「特別一時金」が焦点となっている臨給復枠の要求が全員一致で決定されました。

〒520-0041
滋賀県大津市浜町１－３８
滋賀銀行従業員組合
TEL　077-521-2775
FAX　077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/ffs/
e-mail:ffs@biwa.ne.jp

定期大会は、八軒執行委員の開会宣言で始められ、山﨑執行委員を議長に選出して議事が進められました。

中島委員長は挨拶で、来賓や先輩組合員に出席のお礼を述べた後、別掲の挨拶を行いました。

要求の原点に立ち返ろう

来賓の岡野地協議長は挨拶で「沖縄で米兵による暴行事件があったが、女性として許し難い。日本政府は毅然とした態度で臨むべきであり、基地返還や安保条約の廃棄が求められる。

大阪の橋下市長は自分の価値観を押しつけ、パフォーマンス政策に終始し、公務や教育に乱暴な介入を続けている。また、維新の会は改憲論であり戦争への道を進む。

私の住む泉州は中小企業の町で消費税は疲弊した地域経済を崩壊させる。今こそ地銀の果たすべき役割が問われるだろう。」

最後に「組合の要求がなぜ勝ち取れたのか、歴史的経過の上に立ち、その原点に立ち返りろう」と述べられました。

国民の意識は確実に変化

最近官邸前の集会に参加したが、国民の意識は確実に変化しつつあると実感した。危機意識と政策の違いから行動が日本全体に波及し、継続的に取り組まれている。思想・信条にかかわらず国の原子力行政に対して「ＮＯ」の意思表示をしている。また、米軍の「オスプレイ」の日本国内配備に対しても日本国内から反対の声が上がり、沖縄では米軍基地問題とあわせ「日米安保条約」にまで言及されるなど闘いが進展している。滋賀銀行の職場でもさらに爆笑につつまれました。

同日午後３時半より年金者部会の総会が開催され組合員もオブ参加をしました。その後、従業員組合の主催で年金者部会との交流会が開催されました。

交流会は澤井書記著の司会で進められ、開会の挨拶で和田年金者部会長は「先に松島で開催された『ちぎんの会第２回総会』で、全国の多くの方が日根野さんの事を聞かれた。やはり従業員組合は今も日根野さんに引っ張ってもらっているのかと感じた。今ひとつは、司会が『今回の交流会は組合がご招待した』と何度も言われたが、先輩組合員としてお返しする分はキチンとお返ししなければならないだろう」と述べられ

従組と年金者部会が交流会

乾杯の音頭をされた日根野氏は、朝は菊盆栽の水やり、ひ孫の守もしながらゴルフも楽しんでいると近況に触れながら「今日は若いパワーをもらった、元気を盛り返したいと思う。みなさんも、ガンバラなくても良いから、元気で長生きする努力をして欲しい」と乾杯をされました。

交流会では全員にマイクが回され近況や日頃の思いを語りあいました。

最後に挨拶を中島委員長が行い最近の金融業界の変化などに触れ「メディアが進んでも行き着くところは人と人の対話である、そこに先輩の経験と知恵を借りたい」と述べました。

交流会は澤井書記長の力強い「ガンバロー三唱」で閉会しました。

中島委員長の挨拶

東アジアの平和的連帯

リーマンショックの影響は未だに残っている事は否定できない。ＥＵがノーベル平和賞を受賞したがギリシャに端を発した財政問題はスペインにも飛び火し解決に至っていない。そもそも本質的な金融の仕組みとして投機や投資に対する規制の仕組みが整っていないことである。

アジアは、領土問題など歴史認識の違いなどハードルは高いが東アジアの平和的連帯が必要であり国民の側からの発信が必要だろう。

金融円滑化法の延長必要

金融については、２０１３年３月で期限が切れる金融円滑化法が注目されるが、地域の中小零細業者や地域金融機関、地域経済に与える影響が大きく「法律の再延長」もしくは「同等の効果を持つ新たな法律制定」が求められる。

日本経済については、消費税増税や社会保障の改悪、ＴＰＰ問題などあるが来賓から話が聞けると思うので割愛したい。

企業の社会的責任の放棄

つづいて来賓の日本共産党滋賀県委員会副委員長の節木みちよ衆議院１区予定候補が挨拶をされました。同氏は「『最高の医療は看護労働の保障から』と奮闘された柘植つい子氏のしのぶ会の模様に触れながら、電機産業の大量リストラは企業の社会的責任の放棄であり国会でも追及しているとし、領土問題や従軍看護婦問題でも党としての主張を伝えている。

この１年キンカンが１００カ所になり日本を変える歴史的な出来事となっている。県内でも一点共闘も広がり、自らが閉塞感を打ち破ろうとしている」と述べられました。

人間的連帯ある職場

しかし、そのことに疑問を感じるなど労働者の意識も一部で変りつつある。私たちの見方・考え方を自ら変え、あるべき地域経済に対して地域金融機関が果たすべき役割を長期的な視点で議論し、職場や地域に広く訴えていくことが大切だ。

そのうえにたち、人間的連帯にあふれた職場を目指してともに頑張ろう。

下臨など４議案を決定

大会では「運動方針」「決算・予算」「上部団体役員派遣」「下期臨給要求」など４議案を決定し、その後開催された第２９８回中央委員会で闘争体制を確立し、第１回中央闘争委員会を行いました。（ニュース参照）

近畿地協第7回定期大会
権利を未来につなげる わたしたちの役割

10月27日大津市内に於いて金融労連近畿地協第7回定期大会が開催され役員・代議員など28名に加えてオブザーバーとして地元滋賀従組やユニオンの組合員が多数参加しました。

大会には来賓として金融労連本部・滋賀県労連・滋賀商工団体連合会・日本共産党から挨拶がありました。

定期大会は冨士野副議長の開会宣言につづき議長団選出をし、はじめに議長挨拶が行われました。岡野議長は来賓や先輩参加者に謝辞を述べた後、代議員に「みなさんも業務に追われて組合活動まではと思われるかもしれないが、今ある権利は最初からあったわけでなく、大変なたたかいの中で勝ち取られたもだ。私たち現役世代のためだけでなく、未来の世代につなげる役割がある。この大会で

組合活動に参加したくなる活動を具体化しよう」と呼びかけられました。

滋賀県労連の山元書記長は、3万人の自殺問題や苦しむ若者の実態、滋賀県が進める高校統廃合問題、保育園の待機児童問題などについて述べられました。

滋商連の池端会長は、消費税増税署名で100年続く八百屋さんの店主も署名されたと国民の怒りを紹介し、国税通則法は民主主義の破壊であり税務調査では本人の同意確認に協力をと訴えられた。また、金融円滑化法を恒久法にすべきと述べられました。

日本共産党の節木氏は、滋賀では10・14あいば野集会が行われた、24日から演習が始まったが当日ただちに中止せよと抗議した。いま、領土問題が国政の焦点になっているが大事なのは真摯な外交交渉で両国の

一部にある物理的対応論は厳しく自制を求めた。滋賀ではTPP県民会議など幅広い共闘が実現していると述べられました。

第1号議案「たたかいの総括とすすめ方」の提案は福井事務局長が行い、代議員など10人が発言し決算・予算など全議案を可決決定しました。その後、役員選挙が実施され右の方々が選出されました。

選出された金融労連近畿地協新年度役員（敬称略）

議長　岡野展子（池田泉州従組）
副議長　阿部正巳（京都北都従組）
浦野弘（金融ユニオン）
冨士野三男（金融ユニオン）
車谷薫（滋賀銀行従組）
事務局長　福井悦雄（京都北都従組）
事務局次長　伊藤宗孝（金融ユニオン）

ちぎんの会総会に参加して

小原信夫

10月17日から18日にかけて仙台市のホテルでちぎんの会第2回総会が開催されました。

74名が参加し総会と、2011年3月11日の東日本大震災被災地の視察を行いました。

ちぎんの会は2009年10月8日に結成され、2010年2月15日には会員数7団体375名、2012年8月27日現在では467名となりました。ちぎんの会は地銀退職者の相互支援のため企業年金や医療制度の改善のため、情報交換や、と

きには組合と連携し団体交渉も行っています。

17日の総会では和田一郎会長の挨拶に続いて7団体から主な取り組みや現状、年金問題のほか、東北の会員が多く、被災地への支援の報告などがされました。

私は今年退職し総会に参加させていただきましたが、災害復興への努力のほか、先輩方の活動が地域に大きな貢献をされていることに尊敬と誇りを感じました。

18日には、被災地をバスで視察しました。東松島、石巻、女川など復興には程遠い現状を見て自然の巨大なエネルギーの前に利権の絡んだ人間の対策など意味がない、全世界から核や原発を廃絶する道しかないと思います。また、100億もする戦闘機を何機もアメリカから購入する政府・行政は本当に被災者救済のことを考えているとは思えません。

案内していただいた七十七銀行の先輩も「世界でも歴史的な被害であり、みなさんは画面しか見ておられないでしょうが、現場でにおいを感じてほしい」と言われ、重く心に残りました。更に震撼したことは、女川原発では地震により浸水し、5箇所のうち4箇所の電源が故障し、最後の電源が故障したら冷却不能になり福島と同様の事故になっていたという説明を受けたことです。

滋賀県も近隣の福井に原発銀座といわれる程多くの原発を抱えています。

大飯原発を停止し再稼働を許さない事をめざし全国の反原発のたたかいと連帯して、私も安全安心のために貢献したいと思いました。

オスプレイ来るな！
日米合同演習反対
10・14あいば野大集会

今回予定されている日米合同演習は、ハワイから米陸軍歩兵大隊約750人と陸上自衛隊約600人が10月24日から15日間にわたり海外派兵のための訓練を行います。また、沖縄県民と全国からの抗議を無視して、政府は危険なオスプレイを10月1日から岩国基地から普天間飛行場への配備を強行し、すでに訓練飛行などはじめています。

このような中で10月14日、「日米合同演習反対10・14あいば野大集会」が高島市住吉公園で行われ、滋賀県内と京都・大阪・奈良などから600余人が参加し怒りに溢れる集会となりました。組合からは先輩組合員や家族も含め11人が参加しました。

集会では「あいば野へのオスプレイ飛来は、現実に迫ってくる危険です。滋賀県民の頭上に、墜落の危険がある欠陥機を飛行させてはなりません。日米合同演習反対、オスプレイ配備反対の声を日本国民の中に、より一層大きく拡げていくことをここに宣言します」とした集会宣言を採択しました。

4隊に分かれてスタートしたデモ行進は、シュプレヒコールを繰り返しながら、陸上自衛隊今津駐屯地前を通りJR近江今津駅で宣伝カーの激励を受け解散しました。（10月14日寄稿）